

ぎふ農業・農村を支える人材育成**■夏秋トマト・認定新規就農者等 飛驒トマト統一圃場審査を実施**

下呂市トマト部会（部会員数53名、うち就農後5年以内が24名、栽培面積11ha）では、毎年新規就農者が加入し、産地が活性化している。

同部会の母体である飛驒野菜出荷組合トマト部会では、毎年、秋季の安定出荷に向け、栽培管理の徹底とハウス内外の栽培環境を確認し、栽培技術の更なるレベルアップを図ることを目的に飛驒トマト統一圃場審査を行っている。

9月12日に行われた圃場審査には、県園芸特産振興会、飛驒農業振興会、JAひだ、中山間農業研究所、飛驒及び下呂農林事務所の職員が審査員となり、飛驒管内の7戸のほ場について、トマトの生育状況や着果状況、ハウス内外の環境衛生など7項目の審査を行った。同部会からは、品質、出荷量ともに着実に実績を伸ばしてきた就農5年目のK氏が審査を受けた。

今年は記録的な高温が続いたが、どのほ場も適切に管理がされており、技術レベルの高さが伺えた。

今後、農業普及課では、巡回による栽培技術指導を行うとともに、収量の高い農家の栽培技術を情報提供するなど、更なる経営発展に向け支援を行っていく。（地域支援係）



【下呂市内のトマトの生育状況】

安心して身近な「ぎふの食」づくり**■水稲 良食味品種の選定に向け成熟期調査を実施**

下呂市萩原町の丹精米生産組合（14名、栽培面積6ha）では、コシヒカリを中心に栽培がされているが、近年の地球温暖化の影響で、米の品質低下が懸念されるため、昨年度から地域に合った新たな良食味品種を選定するため、2つの有望品種について現地実証を行っている。

今年度は2名の農家が現地実証に参加し、コシヒカリとの品種比較と栽培特性を把握するための普通期植えと早植え、化成肥料と有機質肥料の比較試験なども行っている。

農業普及課では、9月5日、12日、21日にJAひだの営農指導員と連携し、12カ所のほ場で草丈、穂数などの成熟期調査と収量、品質把握のための刈り取りを実施した。

今年は生育期間を通じて高温で推移したことから、昨年より刈り取り時期が早まり、2つの有望品種は9月13日からと9月27日から刈り取りが開始された。高温の影響で白未熟粒など品質低下が懸念されたが、昨年に比べ大きな品質低下は見られていない。

今後、農業普及課では、刈り取りした稲の収量、品質、食味の調査を実施するとともに、各試験の実証成果を取りまとめ、良食味品種の選定に向け支援を行っていく。（地域支援係）



【成熟期を向かえた有望品種】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■フランネルフラワー 出荷時期予測のための生育データ収集

下呂市では、馬瀬地区の農家1名（栽培面積20a）がフランネルフラワーの切り花生産を行っている。フランネルフラワーは気温など天候の影響で、出荷時期が前後し、計画的な出荷ができないのが課題となっている。

そこで、農業普及課では、フランネルフラワーの出荷時期を予測できる技術を確立するため、生育データの蓄積を進めている。

9月4日、12日、20日、26日には、昨年7月に播種した苗と今年1月、3月、6月に播種した苗について、蕾や株の大きさ、草丈などの調査を行った。

農業普及課では、今後も生育調査を継続し、調査データを農家と共有するとともに、農業技術センターへも情報提供し、出荷時期を予測できる技術確立に向け支援を行っていく。

(地域支援係)



【フランネルフラワーの生育状況】